

### 鹿児島県甌島巡回法座・鹿児島組 大照寺 同朋の会結成報告

2022年4月24日(日)～26日(火)にかけて、「甌島巡回法座」が開催された。当初は2020年に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い延期となり、今回、甌島寺院の協力もあり、ようやく開催に至った。

甌島は、上甌・中甌・下甌3島で形成され、昨年には全島を結ぶ橋が完成し、島同士の交流が増えたが、その反面、過疎化や少子高齢化等により、4年前までは6カ寺あった大谷派寺院も、今では4カ寺となり、聞法する場の減少が顕著となっている。

そこで、本山・企画調整局の協力のもと、巡回法座を企画し、甌島で聞法の間が創造されていくことを願い開催された。

講師には、鳴一志氏(鹿児島組正縁寺住職)に出向頂き、講題「甌島の源」のもと、3日間で全寺院(4カ寺)を巡回していただいた。

当初は、どれほどの参詣があるか不安がありましたが、4カ寺で約80名の参詣者があり、その中でも、下甌島瀬々野浦地区にある西浄寺では、50人の集落ながら、約40名の参詣があった。

鳴氏からは、甌島の『郷土史』の中に記載されていた内容をもとに、「かくれ念仏時代の明治9年までの300有余年間は、鰯漁を生業としていた先達が、“自分たちも鰯と同じ弱い人間、この甌島の離島の地で生まれ命をおえていく身、”と考えていた方々がおられ、それでも先達は『三誓偈』を大切に勤め、そこに書かれている三つ誓願に救われ、堂々と生きていかれた方々がおられた。」と、その事実を法話の中で伝えていただいた。

参加されたご門徒からは、「今までこのような法話を聞く機会がなかった。住職、これからはもっと法話をしてほしい。」「甌島まで来て頂き法を説いて頂き本当にうれしい。ありがとう。」などの声が聞こえた。

2日目には、同朋の会を結成された下甌島の大照寺へ、中根教務所長から、本山からの上山旗と提灯が手交された。

「これを持って一度本山というところに行ってみよう」と、ご門徒からの声があり、また、代務者の熊本氏からは「これから毎月28日は同朋会を開催して少数でも続けていく」と、頼もしい言葉を述べられた。

鹿児島組には甌島以外にも、奄美大島・種子島・屋久島・獅子島があり、沖縄県にも1ヶ寺、当派寺院があり、今後も本山・教区・組と連携し、あらゆる方法で各地域において聞法の間を創造していきたい。

(九州教区駐在教導 玉井和導)

甌島巡回法座の様子



大照寺同朋の会結成記念撮影

